

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第55号 [2011年1月~3月号]

2011 青山学院大学

No. **55**
広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL. 03-3409-8111 (代表)
URL. <http://www.aoyama.ac.jp>

特集

新春座談会

青山学院が育てる 新時代の“地の塩、世の光”

青山学院 理事長 半田 正夫 / 院長 山北 宣久

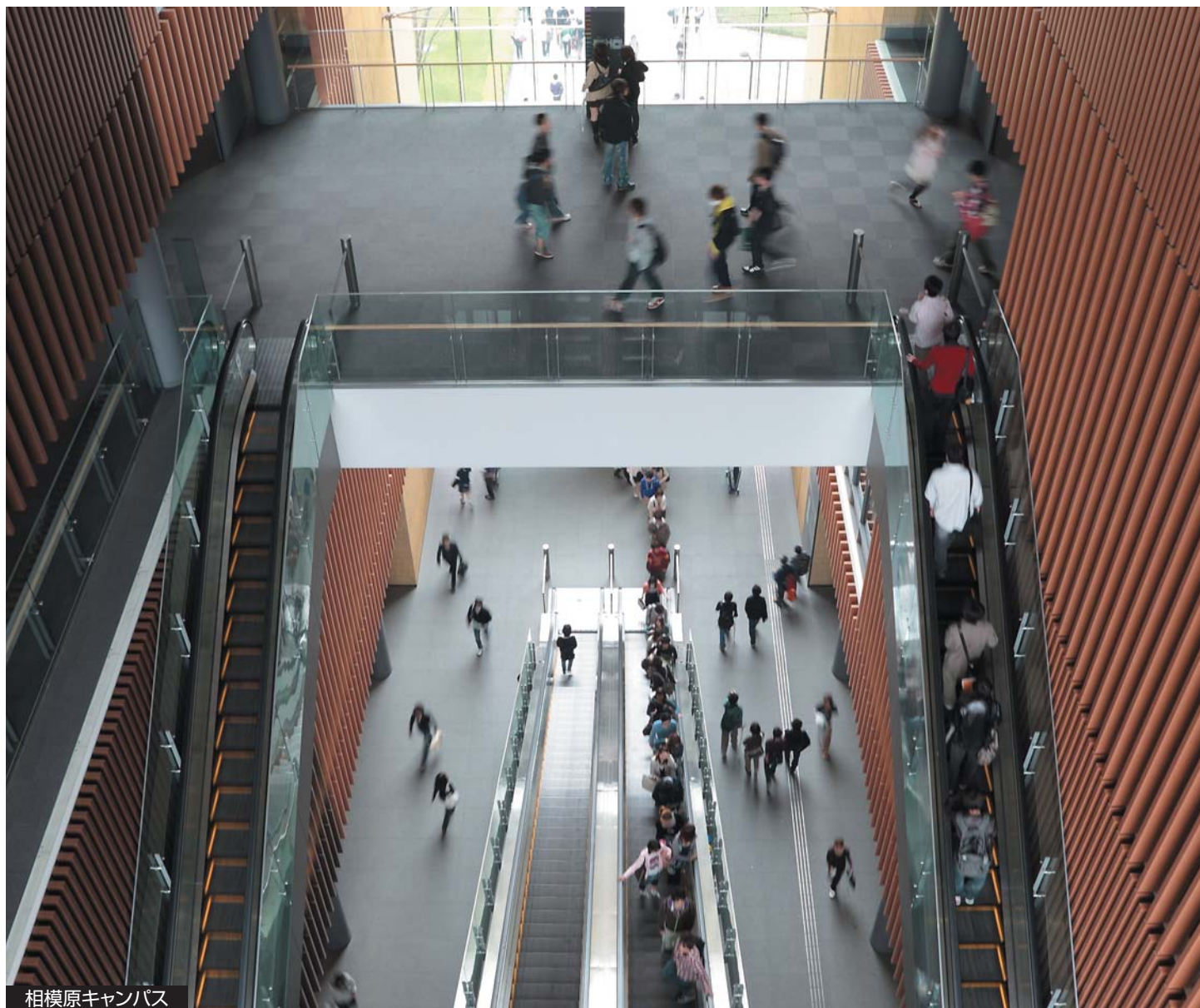
青山学院大学 学長 伊藤 定良 / 副学長 土山 實男

TOPICS 男子バスケットボール部が、今シーズン全ての公式戦を制し、4冠の偉業を達成
陸上競技部が、逆転からの大接戦の末、2年連続でシード権を獲得
全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体戦で9年ぶり4度目の優勝

報告・お知らせ 文部科学省による教育改革等支援プログラムに、2件の取り組み事業が採択
「青山スタンダード教育による就業力育成」
「コミュニティ形成を促進する人材育成担当者向けのハイブリッド型学習プログラム開発」
「青山ジャズ・イニシヤティブ2010」を開催
2010年度ベアレンツウィークエンド実施状況報告

誌上公開講座 青学オープンカレッジ 青山リレートーク
桃源郷とユートピア—東と西の理想郷

INFORMATION 春期休業期間中の窓口案内
大学・大学院学費納付について
「青山学院 エバークリーン募金」のご案内



相模原キャンパス

青山学院が育てる 新時代の “地の塩、世の光”

新春
座談会

青山学院をいっそう活力に満ちた学びの場とするために、キリスト教精神を支柱として、社会との連携強化とグローバル化を推進しています。2012年から、青山、相模原両キャンパスにおいて大学4年間一貫教育が始まります。今年はその準備総仕上げの年です。

青山学院が目指す未来について、土山實男副学長の司会のもと

半田正夫理事長、山北宣久院長、伊藤定良学長に語ってもらいました。

期待が大きい

青山キャンパスの4年間一貫教育

司会 新春を迎えて、理事長、院長、学長に、青山学院の未来について、語っていただきます。

箱根駅伝では、ゴール直前に本学を含む4大学がシード権獲得をめぐる激しいレース展開をみせ、本学は見事に2年連続でシード権を得ました。素晴らしい頑張りをみせてくれた選手諸君の健闘をたたえた

と思います。

さて、伊藤学長にとっては、今年が任期の最終年度であり、いわば総仕上げの年になります。まず、学長の今年の抱負からお聞かせください。

学長 いよいよ来年から4年間一貫教育が始まります。ハード面では青山キャンパスの新校舎※1建設が着々と進行中ですし、ソフト面でも学生の教育環境の整備に全力を尽くしたいと思います。



学長 伊藤 定良

院長 山北 宣久

青山でも相模原でも、4年間一貫教育が実現することにより、授業の多様化、合理化、そしてフレキシビリティが高まります。たとえば同じキャンパスでの4年間一貫になることで、2年生で4年生の科目がとれるなど、フレキシブルな履修が可能となります。

逆に、専門科目を学ぶ途中で他分野に興味を持った3、4年生が、同じキャンパスで改めて教養科目の青山スタンダードの科目をとることもできます。

また、大学院教育がこれまで以上に重要性を増しています。この点でも4年間一貫教育ならば、大学院教育との連携がスムーズになります。青山学院では優秀な学生に早期研究の機会を与えるために、一部の研究科で、学部3年次を修了して進学できる「学内飛び級制度」を導入したり、また、学部4年次の大学院進学予定者に大学院科目の履修を認める「大学院科目特別履修制度」を用意しています。

さらに1年から4年、大学院生まで、学年

を超えて交流ができるのも大きな利点です。研究室に1、2年生が出入りして質問をし、大学院生がアドバイスできるようにすることは、学びの場として極めて大事です。学年や年齢を超えた交流経験は、社会に出たときの人間関係づくりにも役立ちます。

もちろんこの新しい体制は、青山学院のスクール・モットーである“地の塩、世の光”にのっとり、21世紀にふさわしい人間を育て、社会に送り出すためのものです。そのための手助けをすることが、私たちの最大の使命です。

司会 青山キャンパスで4年間一貫教育が実現するのは実に30年ぶり。それだけに期待も大きいと思います。一方で、大学のグローバル化も着実に進み、2011年度の留学生入学手続者数は前年度の約2倍となりました。昨年12月にはタイのタマサート大学に本学のリエゾン・オフィスができ、これで台北、ソウル、上海、ウランバートルに続く5つめのリエゾン・オフィスとなります。伊藤学長の今後のアジアに向けての方針をお

聞かせください。

学長 青山学院は、1874年にアメリカのメソジスト監督教会の宣教師たちによって設立された経緯もあり、もともと国際性にみちた学校です。戦前からアジアの留学生を広く受け入れ、台湾や韓国の経済界や宗教界に大きな業績を残した錚々たる人物を、本学は送り出しています。その伝統を思えば、今後いっそうアジアとの結びつきを強めることの大切さを感じます。

—昨年、ベトナムと台湾に参りまして、当地の大学関係者らと話をした際、青山学院への期待の大きさを実感しました。近代化の最中であるベトナムでは、新しい国づくりの中心となる人材を育てる場として、本学に期待を寄せています。本学でさまざまなことを学ぶとともに日本語を修得して、日越で、さらにはアジア各国で活躍できる人材を育ててもらいたいと熱く語ってくれました。他の国々からも、本学で学ばせたい、学びたいという声が多く聞こえてきます。

司会 確かに韓国や台湾に行くと、青山学院で学ばれた方々が各界をリードされています。キリスト教にもとづく教育の強い絆を感じます。この点、山北院長はどのようにお考えになりますか。

院長 青山学院で学んだ先人たちが、アジア各地でリーダーシップを発揮しておられます。韓国は現在、国民の約27%がクリスチャンですが、その最初の頃のお一人は、青山学院と縁の深い津田仙^{※2}先生に教えを受けた人で、私が見た写真には、津田仙や内村鑑三、新島襄などと一緒に韓国の民族衣装で写っていました。このように歴史的に見ても、キリスト教を通じて、アジア各国のリーダーたちと青山学院の関係は深く、皆さん本学に敬意を払ってくださいます。



理事長 半田 正夫

司会・副学長 土山 實男

社会に貢献する 「開かれた学院」を目指して

司会 山北先生は、院長に就任されて半年余りです。これからの学院について、院長の抱負と期待をお聞かせください。

院長 幼稚園から大学院まで、広い視野で学院全体を見るように努めています。この半年を振り返れば、うれしいこともあり、また苦しいこともありました。しかし今年が2011年ですから、ぜひいい年にしたいものです。青山学院には美しさやエレガントなイメージがありますが、そのベースにはいい意味でのしたたかな強さがあることを、近頃強く感じます。それは伝統を大切に、先人の残してくれたものを継承していこうというスピリットが根付いているからでしょう。

青山学院が他の大学と違うところは、「地の塩、世の光」にあらわされるように、目

に見える世の光だけでなく、目には見えない地の塩の世界を知っていることです。10mの高さの木は、10mの根を張っているといえます。人はどうしても目に見える幹だけを見て判断しがちですが、実は目に見えない根が地下にがっちり伸びているのが青山学院であり、それこそがキリスト教信仰にもとづいて“世の光”とともに、“地の塩”のスピリットを持つ強さであり、美しさと感じています。

2012年には新しい校舎が建ち、4年間一貫教育が始まり、ある種の“世の光”の眩しさに目を奪われがちになりますが、そのようなきにこそ、見えないものに目を注ぐ“地の塩”の心を忘れずにいることが、青山学院をバランスの良い、真に豊かな発展に導くのだと思います。

司会 確かに“地の塩、世の光”をベース

にした教育は、青山学院の強さだと思います。

半田理事長は、就任してまだ3カ月余りですが、学長を務められたこともあり、40年以上にわたり青山学院に関わってこられました。半田先生は、歴史的建造物である間島記念館※3の周辺を聖域とすると宣言されておられます。理事長は青山学院のこれから進むべき道をどうお考えですか。

理事長 青山学院に奉職して長いのですが、それ以前にもいくつかの大学で教え、本学に来てからも講師として法学部のある多くの大学に関わり、合わせて22校もの大学の教壇に立ちました。その上で断言できるのが、青山学院の学生は勉学のみならず性格も良く、全人格的に格段に優れています。これはやはりキリスト教にもとづく建学の精神によるのだと思います。たとえ



クリスチャンでなくても、知らず知らずのうちに、“地の塩、世の光”の精神が身についていくのだと考えます。

学生の質が良いだけでなく、学閥のない本学では、全国から非常に優れた先生方が集まっていて、教員の質も極めて優れています。さらに青山という地の利も、本学に大いに優位性をもたしています。

ご紹介いただいたように、私は間島記念館周辺を聖域にしたいと思っています。その理由は、正門を入ると銀杏並木越しに間島記念館が見える風景が、卒業生全ての心に刻まれたかけがえのない心象風景だからです。私自身、東京オリンピックの前に初めて本学の門をくぐったとき、青山通り

の都電を撤去する道路工事の喧騒をよそに、凛とした荘厳な本学のたたずまいにアカデミックな美を感じたものです。最先端設備の新校舎が建つように、時代とともにキャンパスも変わりますが、本学に関わる全ての人の心のよりどころとして、国の登録有形文化財でもある間島記念館とその周辺の風景だけは、未来にもずっと残し続けなければならないものです。

司会 理事長は就任時に「青山学院を開かれた学院にしたい」と言われました。開かれた学院についてお聞かせくださいませんか。

理事長 青山という日本有数の一等地にあることをもっと活かして、学院を開放し、

学生だけでなく卒業生も、一般の方も気軽に入ることができる、アカデミックな雰囲気にあふれた場所にしたい。そのためには、優れた大学図書館や宗教センター、資料センターを整備しなければならないと思います。また、土山副学長が尽力して昨年11月に学内で開催した「青山ジャズ・イニシャティブ2010※4」などのイベントも、どんどんやるべきです。新校舎に設けられる本多記念国際会議場※5も、積極的に外部の方に利用していただけたら良いと思っています。

司会 開かれた学院に関連して言いますと、2009年よりスタートした青学オープンカレッジ※6では、積極的に近隣の文化施設との協力を推進しています。たとえばこの

新校舎 ※1: 地上6階の低層棟と地上12階の高層棟からなるツインタワー構造の校舎。2012年1月竣工予定。

津田仙 ※2: 草創期の青山学院に深く関与したキリスト者(1837年～1908年)。現津田塾大学の創立者、津田梅子の父。

間島記念館 ※3: 1929年、校友の間島弟彦(1871年～1928年)夫妻の寄付により、図書館として建設。

古代ローマ神殿を思わせる本格的な古典主義建築で、隣接する「ペリーホール(1931年建築)」とともに、2008年3月に国登録有形文化財に登録。

青山ジャズ・イニシャティブ2010 ※4: 2010年11月に本学で開催したジャズコンサート。詳細は10ページ参照。

本多記念国際会議場 ※5: 新校舎の低層棟6階に設けられる国際会議場。名称は青山学院第2代院長の本多庸一(1848年～1912年)に由来する。

青学オープンカレッジ ※6: 学外の方々に学びの機会を提供するために2009年より開講。青山・表参道という立地を活かし、近隣の美術館や芸術施設の協力を得たオリジナルのプログラムが特色。

春には「劇団四季」の協力でミュージカルの講座を開きますし、美術関係では「根津美術館」、「山種美術館」、「サントリー美術館」などの協力を得ています。オープンカレッジは一般の方対象の講座ですが、学生たちに向けても、地域との協力によるユニークな授業ができるのではないかと思います。そのためにも「開かれた学院」という考え方は、これからますます大事になるのではないのでしょうか。

学長 オープンカレッジは、社会貢献の点からも学院の評価を高めています。土山副学長がよく言われるように、学生だけでなく全ての人たちにとっての学びの場、文化との出会いの場として学院をさらに機能させていきたいものです。

院長 時代の変化に対応して、本学では夜間部の学生の募集を終了しました。しか

し、社会人が学ぶ夜間部が持っていた、仕事をしながら学ぶ人たちに應えるスピリットは失いたくないものです。その意味でもオープンカレッジをはじめとする、社会人や地域に向けての取り組みは、これからいっそう大切になると思います。

国際化の拠点になる 相模原キャンパス

司会 冒頭で箱根駅伝の話を見せていただきましたが、その他のスポーツについても、お聞かせください。

学長 箱根駅伝については、前々回に33年ぶりの出場権を勝ち取り、昨年は41年ぶりのシード権を獲得、そして今年も9位入賞で2年連続シード権を得ました。来年はさらなる上位進出が期待されます。本当にうれしい限りです。その他にも、昨年には男

子バスケットボール部の新人戦を加えた4冠達成、女子バドミントン部の9年ぶり4回目のインカレ優勝、さらに硬式野球部とサッカー部、ラクロス部の一部昇格とラグビー部のAグループ昇格など、うれしいニュースをたくさん聞くことができました。

重ねてうれしかったのは、女子バドミントン部の優勝メンバーと話したときに、勉強もすごく頑張っていることを知ったことです。彼女たちだけでなく、青学の場合は、スポーツと勉学を両立させている学生が多く、新聞でも報じられていましたがバスケットボール部のOBには、公認会計士に合格した人もいましたし、馬術部の元主将も司法試験に合格しています。スポーツの隆盛が勉学の向上にもつながり、大学を活性化させるもとになっている。これは素晴らしいことです。今年はさらなる飛躍を期待して



学長 伊藤 定良

司会・副学長 土山 實男

います。

司会 確かに、青学のスポーツは大学のスポーツらしさを失わず、爽やかに頑張っています。

最後に、相模原キャンパスのいっそうの強化についても、学長にお話をお伺いしたいと思います。

学長 まだ詳細を公表できる段階ではありませんが新設学部プランもあり、相模原キャンパスを、現在の理工学部と社会情報学部を核にしながら文理融合の拠点キャンパスとして拡充し、研究成果を世界に向けて発信する先進的・国際的キャンパスにしたいという方針が固まっています。

また、青山キャンパスが、幼稚園から大

学院まで年代を超えた学びの場であるように、相模原キャンパスにおいても、時間はかかるかもしれませんがその方向での充実を目指しています。

さらに、留学生の迎え入れ体制を整えて国際キャンパスにすることも、重要だと考えています。意欲にあふれたアジアやアフリカなどの若い人に学びの場を提供することは、本学の務めだと思います。また、異文化に育った留学生との交流は、日本人の学生にとっても大きな意義を持っています。

院長 近い将来、リニア新幹線の駅が相模原市内に設置されることになっています。そうすると交通の便や環境面で、面白い地域になることが期待できます。

理事長 リニア新幹線の駅ができると、新横浜駅が地域を活性化したのと同じことが、相模原でも再現されるのではないのでしょうか。そして相模原キャンパスと青山キャンパスが、本格的に新しい時代を迎えたときには、私は青山学院が日本一の大学になることも夢ではないと思っています。そのため秘策となる構想を私はあためています。今はまだ明らかにできませんが(笑)。

司会 その理事長の秘策に、大いに期待したいと思います。本年が青山学院にとって良い年となりますように。本日はどうもありがとうございました。

男子バスケットボール部が3年ぶりにインカレ優勝、今シーズン全ての公式戦を制し、4冠の偉業を達成

全国各地のリーグ戦上位チームが集い、2010年11月29日(月)から12月5日(日)の日程で開催された「第62回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)」において、男子バスケットボール部が見事に優勝を飾り、3年ぶりの学生日本一となりました。これで今シーズンは、春の「第59回関東大学バスケットボール選手権大会」、秋の「第86回関東大学バスケットボールリーグ戦」、今回のインカレの主要3大会に加えて、1・2年生による「第50回関東大学バスケットボール新人戦記念大会」のすべてに優勝。“4冠”の偉業を達成しました。

史上まれにみる“4冠”を達成した今シーズンを振り返り、長谷川監督、そしてチームを牽引した4年生を代表して橋本君、小林君、宇田川君に話を聞きました。



監督 長谷川 健志

今年のチームは各学年に特色ある選手が揃い、各々の役割も上手くかみ合っていたので、戦力的にかなりの手応えを感じていました。先発メンバーだけでなく、控え選手のレベルも上がり、どの選手がコートにいても瞬時に攻守を切り替える、青学ならではの試合運び



ができました。

今シーズンは試合のたびに、課題を見つけては修正し、それを積み重ねることで強くなってきた感じです。とくにリーグ戦後はディフェンス面の対策は徹底的にやりました。野球も一緒に、オフェンスは“水物”。勝ち続けるためには、まずしっかり守り切り、それを攻撃につなげるという展開が求められます。今年のチームは試合を重ねるごとに、この部分に成長がみられたのです。最後のインカレ決勝においてもチームとしてのさらなる成長を感じ取ることができました。

以前主要3大会を制したときのチームと比べても、今年の方が安定感を感じられました。とはいえ、本当に強いチームが勝てないのが、トーナメントの一発勝負「インカレ」の怖さです。格下と思っていた相手に敗れる苦い経験もこれまでに何度かありました。それだけに今回の“4冠”達成は私自身もうれしいですし、プレッシャーに打ち勝った選手たちは本



左から 小林君、橋本君、宇田川君

当によく頑張ってくれました。

主将 橋本 竜馬君 経済学部経済学科4年

いまの4年生は、1年生のときにインカレで優勝した喜びと、2年生のときに春(関東大会)、秋(リーグ戦)と勝ちながらインカレでは3位に敗れた悔しさの両方を経験しています。そのため新チームになった当初から、常に“4冠”を意識して練習に取り組んできました。秋のリーグ戦に勝ったときも「目標はまだ先にある」と全部員に気の緩みはなかったですね。自分も主将としてプレッシャーを感じた時期もありましたが、念願の“4冠”を達成できてホッとしています。勝利の瞬間は、コート上で頭が真っ白になるくらいうれしかったです。

副主将 小林 純也君 経営学部経営学科4年

4年生にとって、インカレは一番勝ちたかった大会なので、優勝できて本当に「うれしい!」の一言です。この4年生の思いが下級生にも伝わったことでチームがひとつになり、“4冠”がかかったインカレも勝ち抜けた気がします。ただ、勝ちたい気持ちが強すぎたのか、決勝戦では途中で20点以上のリードがあっても全く安心できず、最後の最後まで緊張したまま。試合時間が長く感じられましたね(笑)。

宇田川 一馬 経営学部経営学科4年

学生生活最後の年に、目標とするすべての大会で優勝という快挙を達成できて最高です。新チーム結成時に4年生で話し合い、最上級生として自分のことだけでなく、下級生たちのプレーや日常にも目を配り、全体的なチーム力の向上を目指してきました。その結果が学生“4冠”です。1年生のときから一緒に、悔しい思いもたくさんしてきたので、この喜びを4年生全員で分かち合いたいと思います。

第87回箱根駅伝に陸上競技部が出場

逆転からの大接戦の末、2年連続でシード権を獲得

2011年1月2日(日)・3日(月)、第87回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)が行われ、前回大会でシード権を獲得した陸上競技部が3年連続で箱根路のレースに挑みました。今大会は、各大学が例年以上に高いレベルで僅差を競う白熱した展開となり、その中で本学は、8位から11位までがわずか7秒差という大混戦となったシード権争いに勝ち残り、総合9位の成績でゴール。10名の選手たちが懸命にタスキをつなぎ、見事に2年連続でシード権を手に入れました。順位は昨年の総合8位におよびませんでした。11時間13分20秒を記録した総合成績は、昨年のタイムをおよそ8分更新。また、10区で果敢なラストスパートをみせた主将の小林駿祐君、2区で圧巻の11人抜きを演じた出岐雄大君をはじめとした選手たちの勇姿は、“さらに強くなった青山学院大学”を十分に印象づけるものでした。



監督 原 晋

総合3位という目標を掲げて取り組んできましたが、往路16位から執念をみせてシード権を勝ち取った総合9位は、まずまずの評価をしてよいのではと考えています。昨年10月には出雲駅伝を不本意な成績で終えてしまいましたが、それがあって「箱根駅伝では絶対にやってやる」というムードになり、今回の結果につながりました。

チームは2年連続で箱根駅伝の総合タイムを大幅に更新しました。来年のチームには、それをさらに縮められる可能性を感じています。今度こそ実現可能な目標として箱根駅伝総合3位を目指しますので、ぜひご期待ください。

あたたかいご声援、ありがとうございました。



主将 小林 駿祐君 法学部法学科4年

たくさんの人に支えられ、最低限の目標であったシード権獲得を達成できました。僕が走った10区の最後は激しいスパート合戦となりましたが、あの場面で実力以上の力を出せたのは、沿道に集まってくれた皆さんの声援があったおかげだと思います。

今回の箱根駅伝は最初で最後の出場。昨年は直前でメンバーからはずれた悔しい経験をしました。ですから、今回走れなかった後輩たちには、特にがんばってほしいという気持ちをもっています。チームは来年からさらに強くなっていくはず。成長していく選手たちに、どうかこれからもご期待ください。

今は仲間や監督をはじめ、お世話になったすべての人に対し感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



第61回全日本学生バドミントン選手権大会

女子団体戦で9年ぶり4度目の優勝

女子バドミントン部が、2010年10月16日(土)・17日(日)に東京体育館にて開催された第61回全日本学生選手権(インカレ)団体戦において、2001年以来9年ぶり、4度目の団体戦優勝を飾りました。同大会には、東日本・西日本学生バドミントン選手権大会ベスト8以上の大学、および地区学生バドミントン連盟に推薦された大学32校が出場。東日本選手権ベスト8だった本学は、不屈の闘志と素晴らしいチームワークで、日本一の栄冠に輝きました。チームを代表して主将の本間ちさとさんと副主将の中原唯衣さんに話を聞きました。

主将 本間 ちさとさん 経済学部第二部経済学科4年

一昨年夏からチームをまとめる役割をまかされましたが、当初は試行錯誤の連続でした。一昨年4月と9月のリーグ戦は3位、東日本選手権団体はベスト8止まり。団体5試合のうち2つは勝つのですが、あとひとつがとれないことが多かったのです。そこで団体で勝つために、ダブルスは私と中原のペアを解消して、それぞれが後輩と組んでチーム力の強化を図りました。大きな決断でしたが、徐々に後輩たちが成長し、インカレ優勝という成果を出すことができました。また後輩を育てることで、私

自身成長することができたと思います。指導してくださった監督やOG、OBの方々には心から感謝しています。

副主将 中原 唯衣さん 経済学部経済学科4年

いちばん苦しかったのは準々決勝の専修大学戦。2-2になって私がシングルスで負けると終わりです。その最終セットが、21点先取で19オールまでもつれていたのです。ここで勇気づけてくれたのが、チームみんなの「大丈夫だよ!」の大声援。その声に勇気を得て、なんとか競り勝ちました。勝った瞬間は涙があふれてきて、本当にチームがひとつになれたと感じました。そのチームの力で準決勝の筑波大学、決勝の立命館大学にも勝利できました。



左から 中原さん、本間さん

2010年度プロ野球・ドラフト会議で硬式野球部の小池 翔大君が、千葉ロッテマリーンズから指名を受けました

2010年10月28日(木)に行われたプロ野球のドラフト会議で、硬式野球部の小池 翔大君(捕手、文学部第二部教育学科)が千葉ロッテマリーンズから指名を受けました。

小池君は、常総学院高等学校(茨城)から本学に進学し、東都大学野球のリーグ戦に1年生の春から出場。その年のベストナインを受賞しました。その後もチームの主力として活躍。2010年には日本代表として世界大学野球選手権大会に召集され、銅メダルの獲得に貢献しました。

また世界大会やプロ選手との交流戦など、日本代表メンバーとして大舞台で活躍した一方で、4年生春には東都リーグ2部での戦いも経験。チームは一季で1部への復帰を果たしましたが、

悔しさやハングリー精神を知る機会にもなりました。青山学院大学での4年間で身につけたすべてをパワーに代えて、千葉ロッテマリーンズでの活躍を期待します。

【小池翔大君のコメント】

千葉ロッテマリーンズから指名をいただき本当にうれしいです。素晴らしい選手がそろっていて、チーム全体としてもまとまりのあるチームであり、目標にしている本学出身の先輩、井口資仁選手がいるので、一緒に野球ができるのを楽しみにしています。

キャッチャーはとても重要なポジションなので、ピッチャーに信頼して投げてもらえるように、守備に力を入れていきたいと思っています。



航空部が「原田 覚一郎杯」で念願の初優勝

2010年8月8日(日)から18日(水)の日程で、大学対抗グライダー競技大会「第14回原田覚一郎杯」が、埼玉県熊谷市にある妻沼滑空場において開催され、本学航空部の青山Aチームが優勝を飾りました。パイロットを務めたのは井口知彦君(理工学部物理・数理学科4



初優勝を飾った受機を前に左から 上田君、井口君、小川教授

年)と上田貴大君(法学部法学科4年)のふたり。とくに井口君は、個人賞でも最優秀選手賞、Aコース距離選手賞、滞空選手賞、1フライトハイスコア賞、熊谷市長賞を受賞する大活躍でした。

夏の前田覚一郎杯、冬の関東競技会、春の全日本選手権という主要大会において、今回の原田覚一郎杯が、本学航空部初の優勝でした。最優秀選手賞の井口君も「個人賞よりもチームとしての優勝が最高。航空部全員の快挙です」と語ります。航空部部長の小川武史教授(理工学部機械創造工学科)も「個人種目と思われがちだがグライダー競技ですが、パイロットが集中できるように、機体の整備、運搬、記録など、他の役割も重要。部員全員の勝利です」と部員たちの健闘をたたえました。

なお、2010年12月の関東学生グライダー競技会でも5位に入賞し、3月の全日本選手権の代表に選出されました。

理工学部吉田 篤正研究室がかかわる全天X線監視装置「MAXI」が、数々の新天体発見の成果をあげています

「MAXI」は、2009年7月にスペースシャトル「エンペラー号」で宇宙へと飛び立った若田光一宇宙飛行士によって、国際宇宙ステーションの船外実験プラットフォームに取り付けられた「全天X線監視装置」です。数々の大学や研究所の共同研究で誕生した「MAXI」の開発には、本学理工学部物理・数理学科の吉田篤正研究室もかわり、山岡和貴助教(理工学部物理・数理学科)、中平聡志君(理工学研究科理工学専攻基礎科学コース博士後期課程3年)が現在も観測データの解析等でミッションの推進に貢献。数々の新天体発見の成果をあげています。

「高性能の『MAXI』は、従来の観測機では見えなかったものを見せてくれます」と吉田教授が語るように、まだ1年半の観測ですが、新種のブラックホールや銀河系のかかなり遠方に位置する新星の発見

など、大きな成果をあげています。これが5年、10年と長期間にわたるデータを集約できれば、さまざまな新発見はもちろん、これまで知っていた天体の新たな一面も確認できることが期待されています。

吉田研究室では「MAXI」の他にも、2005年に打ち上げられたX線天文衛星「すざく」、さらに計画段階のものでは、次世代X線天文衛



星「Astro-H」や国際宇宙ステーションに搭載予定のガンマ線観測装置「CALET」などのプロジェクトにもかわり、宇宙の謎の解明にチャレンジしています。

宇宙の謎を解明する吉田研究室
左から 中平君、吉田教授、山岡助教

平成22年度 文部科学省による教育改革等支援プログラムに、2件の取り組み事業が採択されました

●大学生の就業力育成支援事業「青山スタンダード教育による就業力育成」

●産学連携による実践型人材育成事業「コミュニティ形成を促進する人材育成担当者向けのハイブリッド型学習プログラム開発」

それぞれの本学担当者に取り組みの概要を聞きました。

大学生の就業力育成支援事業

青山スタンダード教育による就業力育成

本取り組みは、本学の全学共通教育システム「青山スタンダード」に、就業力育成のための科目群を新たに設置し、学生の社会的・職業的自立への意識を高めることを目標とするものです。青山スタンダード教育機構の機構長を務める長谷川信副学長、および本プロジェクトの中核を担う総合文化政策学部の堀内正博教授に聞きました。



青山スタンダード教育機構 機構長
副学長 長谷川 信

青山学院大学では2003年度より、それまでの全学共通教養教育を大幅に改革し、独自の学びのスタイルとしての「青山スタンダード」教育をスタートさせています。今回の「青山スタンダード教育による就業力育成」の取り組みは、その青山スタンダードのなかに「キャリアの技能」領域を新設し、すべての学生に1年次から自らのキャリアデザインに関する意識を高めてもらうことが目的です。以前から就業力の育成につながる科目もいくつか用意していましたが、「キャリアの技能」領域に集約することでその役割を明確にしたいと思います。

もともと青山スタンダードには、「青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえている」との理念がありました。この理念

は言い換えれば社会で求められている“就業力”そのものです。「キャリアの技能」領域の整備および体系化により、学生の就業力の一層の向上を図ってまいります。



総合文化政策学部
教授 堀内 正博

2011年度からの本格的スタートに向け、今年度は担当教員の採用、青山スタンダードへの「キャリアの技能」領域の新設、新科目の実験的開講、青山と相模原を結ぶ遠隔講義システムの導入などを進めています。既に担当教員として、ファッション・アパレル業界の第一線で活躍中の方を招へいし、流通、販売、さらには海外ビジネスなど多彩な面から“仕事の現場”を学べる体制を整えました。そして2月には希望者を対象とした集中講義を実施し、3月中に遠隔講義システムを整備します。

近年、企業に就職したものの、いわゆる“ミスマッチ”を理由に退職する若者が増えています。本学の学生においては、本プロジェクトを通して自分自身の適性を見極めてミスマッチを解消し、理想の職場と出会ってもらいたいです。

産学連携による実践型人材育成事業

コミュニティ形成を促進する人材育成担当者向けのハイブリッド型学習プログラム開発



プロジェクト責任者
社会情報学部 教授 荻宿 俊文

本事業で開発するプログラムは、企業や行政機関などの組織の人材育成担当者が必要としている、組織間・組織内でのコミュニティ形成に関する知識や技能を、eラーニングによる講義と実践的なワークショップを組み合わせて身につけ、さらにSNS※を活用して意見交換や人脈作りもできるプログラムです。

組織の人材育成にかかわっている人たちの大きな悩みは、「世代間の意思疎通ができない」ことであり、「若手の早期退職」です。これは大問題で、組織の活性化が大きく阻害されます。しかしながら、育成担当者への期待は高まるものの、コミュニケーション力の強化やコミュニティ形成のノウハウを持っているケースは多くありません。そのため研修はあるのですが、忙しくて参加しにくく、また知識を学んでも実践力が身につけにくいのが現状でした。以前、地域教育に携わる人々を対象としたコミュニティ形成研修を行ったところ、企業や団体の人事部の方や人材育成担当の方が「コミュニティ形成のノウハウを知りたい」と大勢参加して驚いたことがあります。それほど人材育成担当者の悩みは深いのです。それを受けてリサーチをしたところ、担当者は、現場のコミュニケーション力を強化し、縦割りの組織を横断する取り組みをしたいと望んで

いることがわかりました。

このプログラムの最大の特徴は、「eラーニング・対面ワークショップ・SNS」の3種ハイブリッド型の研修スタイルであることです。コミュニティ形成の理論学習と技能習得をパソコンを活用した「eラーニング型研修」と対面しての「ワークショップ型研修」を組み合わせて行い、さらに、「SNS型研修」としてパソコンを通じて双方向に意見を交換できる環境をつくりました。知識と実践が研修の柱であることは確かなのですが、このSNSによる意見交換も極めて有意義で、自分の会社、組織以外の人たちとの人脈作り、ネットワーク作りに発展することが大いに期待できます。実際にかつて「SNS型研修」を取り入れたプログラムでは、意見交換で盛り上がり活発にヒューマンネットワークが形成されていました。

これまでの研修システムでは、課題解決のための知識を増やすことはできますが、問題の発見やコミュニケーションを通してわかり合う能力を育成することは難しい。しかしこのプログラムは、eラーニングで知識を学び、ワークショップでコミュニティ形成のエクササイズを体験して、SNSの意見交換でネットワークをつくって交流できる、複合的なメリットがあります。

2010年度中にプログラムを開発し、その効果を検証していく予定です。将来的には青山学院大学の社会人教育のプログラムとして開放し、「大人の学びなおし」の場を提供したいと考えています。

※SNS=ソーシャル・ネットワーキング・サービス

「青山ジャズ・イニシャティブ2010」を開催

ジャズコンサート、第1回「青山ジャズ・イニシャティブ2010」が2010年11月14日(日)に青山学院講堂で開催されました。他大学から3バンド、社会人1バンド、そしてプロの2バンドを迎え、青山学院大学ロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラが熱演しました。約500人のジャズファンが集まり6時間にわたって会場は大いに沸きました。実行委員長の青木保教授と副委員長の土山實男副学長、そしてロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラのメンバーで、今回のコンサート開催に携わった橋本梢さんに、今回のイベントについて語り合ってもらいました。



青木 保
総合文化政策学研究所特任教授
元文化庁長官



土山 實男
副学長



橋本 梢さん
文学部フランス文学科3年
ロイヤル・サウンズ・
ジャズ・オーケストラ所属

土山 青山学院は、ジャズシンガーのペギー葉山さんをはじめ、作曲家の筒美京平さん、作詞家の橋本淳さん、そして桑田佳祐さんから多くの音楽家やミュージシャンを出し、ジャズにも縁の深い大学です。本学に元文化庁長官でジャズにも詳しい青木先生が来てくださって、「どうして青学でジャズをやらないのですか」と言われたことがきっかけで、まず始めたのが「青学オープンカレッジ」のジャズ講座です。ジャズハウス「Body&Soul」の協力を得て今やオープンカレッジの人気講座となっています。

これがひとつの契機となって、「学生が参加できるジャズコンサートをやりましよう」という方向に発展しました。そこで、昨年4月にロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラの演奏を青木先生やジャズシンガーのチャリットさん、また学外のジャズ専門家に聞いてもらい、これならいけるということになりまして、9月にロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラを、青木先生の紹介で「金沢ジャズストリート」に参加させました。そして、今回の青山ジャズコンサートの開催ということにこぎつけたわけです。

青木 大学は、単に研究・教育の場というだけでなく、文化を発信していくことが重要です。そして昨年、本学に来て、学院の音楽文化的背景と青山という立地をこの文化発信に役立てればと、ジャズファンですから、このイベントを提案したのです。本学にはロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラという、本格的なジャズバンドがあります。このバンドを核に、他大学や社会人のバンドにも参加してもらい、さらにプロにも特別出演してもらい、楽しくかつ有意義なイベントにすることができました。イベント名をイニシャティブとしたのには、ジャズ文化発信の「さきがけ」になろうという意味が込められています。

土山 このイベントは、半田理事長の「開かれた学院」という考えにも合致するもので、理事長はじめ、後援会や校友会など全学院からサポートをいただきました。また学外からも毎日新聞社、企業、文化庁、渋谷区と港区の教育委員会などの

協力をいただきました。他大学のバンドには橋本さんから声をかけてもらって、早稲田大学、明治大学、東京工業大学のバンドに参加してもらいました。

橋本 学生のジャズオーケストラは、なかなか発表をする機会がないせいもあって、どの大学のバンドもふたつ返事で快く参加してくださいました。東京工業大学ロス・ガラチェロス、明治大学ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ、早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラが学生バンド、各大学それぞれ個性的な演奏をしてくれて、刺激を受けました。それに社会人のザ・ビッグバンド・オブ・ロックス、それにプロのfunk orchestra T.O.P.とボーカルのチャリットさん、大口純一郎カルテットの演奏も素晴らしかったです。わが青山学院ロイヤル・サウンズ・ジャズ・オーケストラは、1、2年のジュニアバンドはカウント・ベイシーのナンバーを主にスタンダードジャズを、3、4年のレギュラーバンドはギル・エヴァンスのアレンジした曲を中心に、チューバやフレンチホルン、シンセサイザーを加えた個性的な編成で演奏しました。

青木 学生諸君の演奏はなかなかのものでした。本学ジュニアバンドの正確でオーソドックスな演奏は懐かしい気持ちにさせてくれましたし、上級生のレギュラーバンドは、基本を発展させて個性を主張する力強い魅力的な演奏でした。

ジャズのルーツはアメリカの黒人音楽ですが、ヨーロッパでも日本でも広く受け入れられて、プレスリー、ビートルズから現在につながるポップスも、もとをたどればジャズに行き着きます。いまやグローバル化して、中国でも昨年10月にはジャズフェスティバルが開かれました。大変知的で洗練された音楽文化で、青山学院にも青山という土地にもふさわしいものだと思います。ちょっと意外かもしれませんが、ジャズファンは世代を問わず存在していて、小学生から80歳過ぎの高齢者まで、観客席にはいろいろな世代の方が聴きに來るのです。

土山 ジャズ・イニシャティブの目的は、単に大学からの発信にとどまらず、地域との連携を強めるねらいもあります。目の前の国連大学や、伊藤忠、日本オラルなどの青山に本拠を置く企業も「青山らしいイベントにしてください」と協賛や後援をしてくれました。

僕は、中学と高校のブラスバンドでトランペットとサクソフーンをやったことがあって、今回の橋本さんのトランペットを聴いて感動しました。演奏した橋本さんの感想はどうですか。

橋本 ひとことではいえない、とっても楽しかったです。青山学院講堂のような大きな会場は初めての経験で、やや緊張もしましたが、観客の皆さんから温かい拍手をいただいて、素晴らしい経験になりました。来年もまた開催できるなら、この「青山ジャズ・イニシャティブ」をひとつの目標にして、私たちが頑張りたいと思います。

土山 もちろん来年もやりたいですね。その後も橋本さんの後輩たちが活躍できる青山地域のイベントとして、発展させていきたいですね。



2010年度ペアレンツウィークエンド実施状況報告

本学では、「大学後援会」の事業活動の一環として、在学生の保護者の皆様に対し、大学の近況をお知らせするとともに、学業成績、学生生活、進路、就職活動等の現況について全体的な説明と個別面談を行う懇談会を開催しています。これは保護者の皆様と大学との密接な関係を図ることを目的として始められた事業です。

①キャンパス開催

【全学部1年生の保護者対象懇談会】入学して間もない1年生の保護者の方を対象とした懇談会です。学部別に相模原キャンパスにおいて、実施しました(同日開催)。学部代表者の挨拶、近況報告から始まり、学業や進路、学生生活について、各担当部署から説明がありました。各説明に熱心に耳を傾けている姿が多く見受けられ、「相模原キャンパスを訪ねるいい機会に恵まれました。」というご意見が多くありました。ご子女の通われる環境の豊かなキャンパスを実感していただけたことは、保護者の皆様にとって良い機会となったようです。

【学部別懇談会】学部ごとの学業成績や進路就職についての説明に重きを置いた懇談会のため、主に2、3年生の保護者の方にご参加いただきました。特に、就職についての説明には、熱心にメモを取られる姿が印象的でした。その他、学生に就職活動の実体験を話してもらうなど、学部によって工夫を凝らした内容となりました。全体説明会終了後には、個別面談を実施。学業成績、就職に関する相談はもちろんのこと、例年、学部によっては留学や教職課程についての質問が多くあるため、それらに関し、分野別説明会を実施した学部もありました。

いずれの懇談会も、全体説明会終了後にはティータイムを企画。各学部の教員と、そして保護者の皆様同士、交流を深める場となりました。



▲全学部1年生の保護者対象懇談会(相模原キャンパス)

その他、大学オルガニストによるパイプオルガン演奏を楽しんでいただく企画等を取り入れました。パイプオルガン演奏は、「パイプオルガンの音色を聞いてみたい」という、保護者の方からの多数のご意見により実現したものです。今後も、皆様の声を反映し、ペアレンツウィークエンドならではの企画を取り入れていく予定です。

② 地区開催

全国18ヶ所の都市で実施しました。今年度の開催都市は右表のとおりです。地区では、大学代表者の挨拶および大学近況の報告をし、引き続き各担当者から学業成績、就職、学生生活について説明しました。昼食会は、大学関係者、保護者の皆様同士、懇談をする場となりました。校友の方々にご参加いただいた会場では、地元での卒業生の活躍など、心強いお話を聞くことができました。

ペアレンツウィークエンドを通して、より多くの保護者の方々にキャンパスを訪れて欲しいと思っています。遠方のため、キャンパスに来られない方のための地方開催においても、毎年、開催地区の見直しをし、また、いただいたご意見をもとに、工夫を凝らした内容を企画する予定です。

キャンパス開催

	対象	開催日	会場
	全学部1年生の保護者対象懇談会	6月26日(土)	相模原キャンパス
主に2、3年生の保護者対象 学部別懇談会	文学部、文学部第二部	6月19日(土)	青山キャンパス
	経済学部、経済学部第二部	5月29日(土)	
	法学部	6月12日(土)	
	経営学部、経営学部第二部	6月12日(土)	
	国際政治経済学部	6月19日(土)	
	総合文化政策学部	5月29日(土)	相模原キャンパス
	理工学部	7月3日(土)	
社会情報学部	10月10日(日)		

*対象は、懇談会内容を基準として明記しています。
懇談会内容に応じ、ご希望の懇談会にどなたでもご参加いただけます。

地区開催

対象道府県	開催都市	開催日	会場
北海道	札幌	8月22日(日)	ホテルオークラ札幌
	函館	8月21日(土)	ロワジールホテル函館
岩手	盛岡	7月11日(日)	ホテルメトロポリタン盛岡NEWING
福島	郡山	9月5日(日)	郡山ビューホテルアネックス
茨城	水戸	8月28日(土)	三の丸ホテル
新潟	新潟	7月4日(日)	新潟グランドホテル
長野	長野	8月8日(日)	ホテルメトロポリタン長野
石川	金沢	7月24日(土)	ANAクラウンプラザホテル金沢
愛知	名古屋	8月1日(日)	キャッスルプラザ
静岡	浜松	7月25日(日)	オークラアクティホテル浜松
広島	広島	8月28日(土)	ホテルグランヴィア広島
大阪	大阪	8月29日(日)	リーガロイヤルホテル
島根	松江	7月11日(日)	松江東急イン
愛媛	松山	7月19日(月祝)	松山全日空ホテル
高知	高知	8月21日(土)	三翠園
長崎	長崎	8月7日(土)	長崎全日空ホテルグラーバーヒル
福岡	福岡	8月8日(日)	ホテルオークラ福岡
鹿児島	鹿児島	7月31日(土)	城山観光ホテル

※宮崎会場：7月17日(土)開催予定でしたが、
口蹄疫問題のため中止とさせていただきます。



▲学部別懇談会(青山キャンパス)

Club & Circle Information

*学生団体の主要活動予定は、今後変更になる場合があります。

問い合わせ先 学生部学生課 TEL.03-3409-7835

主要活動予定(2011年1月~2月)

- アイススケート部(ホッケー部門) 日本学生氷上競技選手権大会(1月)
- アイススケート部(フィギュア部門) 日本学生氷上競技選手権大会(1月)
- 航空部 第51回全日本学生グライダー競技選手権大会(3月)
- 硬式庭球部 関東学生新進テニス選手権大会予選(2月)
- 水泳部 東京都冬季水泳競技大会(2月)
- バスケットボール部(男子) 第86回全日本総合バスケットボール選手権大会(1月)
- 陸上競技部(長距離ブロック) 第87回東京箱根間往復大学駅伝競走(1月)
- 青山ミュージックソサイエティ バレンタインライブ(2月)
- 演劇研究会 ユニット公演(1月)
- 学友会吹奏楽パトントワリング部 第24回関東パトントワリングチームコンテスト(2月)

主要活動報告(2010年10月~12月)

- 硬式野球部 東都大学野球秋季リーグ戦(4位)
- 陸上競技部(長距離ブロック) 第22回出雲全日本大学選抜駅伝競走(11位)
- バスケットボール部(男子) 第86回関東大学バスケットボールリーグ戦(優勝)
- 第62回全日本大学バスケットボール選手権大会(優勝)
- バレーボール部(女子) 2010年度秋季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦(5位)
- バドミントン部(女子) 第61回全日本学生バドミントン選手権大会(優勝)
- サッカー部 第84回関東大学サッカーリーグ戦2部リーグ2位(1部昇格)
- ラクロス部 第23回関東学生ラクロスリーグ戦2部リーグ優勝(1部昇格)

2011年度学事暦 (学部)

※大学院生は掲示板等を参照してください。

前期

4月1日(金)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断(8日(金)まで)
4月2日(土)	入学式(学部・大学院)
4月9日(土)	前期授業開始
4月11日(月)	新入生歓迎礼拝(16日(土)まで)(相模原)
4月18日(月)	履修登録最終日(青山屋間部)
4月19日(火)	履修登録最終日(相模原、第二部)
4月25日(月)	イースター礼拝(相模原、青山屋間部)
4月26日(火)	イースター礼拝(第二部)
4月29日(金)	昭和の日は授業実施日
5月23日(月)	前期チャペル・ウィーク(28日(土)まで)
5月24日(火)	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝(相模原、青山屋間部)
6月13日(月)	ペンテコステ礼拝(相模原、青山屋間部)
6月14日(火)	ペンテコステ礼拝(第二部)
6月18日(土)	アドバイザー・グループデー(全キャンパス休講)
7月22日(金)	補講日(23日(土)まで)(相模原、青山屋間部、第二部)
7月25日(月)	補講日(28日(木)まで)(第二部のみ)
	前期定期試験期間(8月6日(土)まで)
8月8日(月)	清里サマー・カレッジ(10日(水)まで)
	夏期休業期間(9月20日(火)まで)
9月24日(土)	9月学部・大学院学位授与式

後期

9月21日(水)	後期授業開始
10月8日(土)	相模原祭(9日(日)まで)(8日(土)は相模原キャンパスのみ休講)
10月10日(月)	体育の日は授業実施日
10月17日(月)	後期チャペル・ウィーク(22日(土)まで)
10月28日(金)	青山祭(30日(日)まで)(全キャンパス休講)
11月15日(火)	創立記念礼拝(第二部)
11月16日(水)	創立記念日は授業実施日
	創立記念礼拝(相模原、青山屋間部)
11月25日(金)	クリスマス・ツリー点火祭
12月13日(火)	クリスマス礼拝(青山屋間部・第二部合同)
12月15日(木)	クリスマス礼拝(相模原)
12月24日(土)	冬期休業期間(1月5日(木)まで)
1月6日(金)	後期授業再開
1月13日(金)	大学入試センター試験準備日(実施キャンパスのみ休講)
1月14日(土)	大学入試センター試験(15日(日)まで、14日(土)は実施キャンパスのみ休講)
1月17日(火)	補講日(19日(木)まで)(相模原、青山屋間部、第二部)
1月21日(土)	補講日(25日(水)まで)(第二部のみ)
	後期定期試験期間(2月3日(金)まで)
3月24日(土)	卒業礼拝、学部・大学院学位授与式

2011年度学年初頭行事についてのお知らせ

年度初頭には、各学部・学科ごとに書類配布、履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。日時、場所等の詳細は、青山・相模原両キャンパス所属学生とも学生ポータル(1月中旬以降)で確認してください。

進路・就職関係行事のお知らせ

青山キャンパス

行事	対象学年	日程	備考
一般常識テスト(有料)	学部3年生・院1年生	2月2日(水)	
業界研究企業セミナー(ブース形式)	学部3年生・院1年生	2月1日(火)~4日(金)	
就職個別相談会	学部4年生・院2年生	1月11日(火)~3月22日(火)	毎週火曜
学内企業セミナー	学部4年生・院2年生	随時	

☆2/7(月)~2/18(金)の期間は、入学試験による入構制限があるため、開室時間を変更します。詳細はWeb Ash等で確認してください。

相模原キャンパス

行事	対象学年	日程	備考
学内企業説明会	学部3年生・院1年生	2月3日(木)~9日(水) (土日除く)	詳細はWeb Ash等を参照

※追加、変更等もありますので、詳細はWeb Ash等にて必ず確認してください。
また、就職の相談は随時受け付けていますので、来室し申し出てください。

進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)……Web Ashで入力、進路・就職センターへ「進路届」を提出
相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科、社会情報学部、社会情報学研究科社会情報学コース)……Web Ashで入力、学生支援ユニット進路グループへ「進路届」を提出

※人文・社会科学系の大学院生については、進路に関する調査用紙が、大学院事務室、専門職大学院事務室に置いてあります。ご協力お願いいたします。

卒業・修了の決まったみなさんへ

卒業・修了後の進路の報告について

学長 伊藤 定良 / 就職部長 港 徹雄

青山学院大学では、みなさんに修学後の進路を報告していただいています。就職、進学、現職の継続、留学、各種試験受験準備などの報告を、卒業・修了の決定した学部4年生と修士課程修了生全員に提出していただきます。

報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の名前や就職先が学外に公表されることは決してありません。

また、官公庁などへの統計資料としても必要となりますので、必ず報告してください。

民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「就職活動報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せて提出をお願いいたします。

みなさんのこれからの活躍を、こころからお祈りいたします。

春期休業期間中の窓口案内 対象期間 2/3(木)～3/31(木)

部署	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
教務課	2/21～3/30	月～金	9:00～19:00(窓口停止時間11:30～12:30)	2/3～2/19は閉室 3/31(木)より平常通り
		土	9:00～19:00(窓口停止時間11:30～14:00)	
教職課程課	3/9～3/31	月～金	9:00～16:00(窓口停止時間11:30～12:30)	2/3～3/8は閉室 3/9(水)のみ19:00まで開室 4/1(金)より平常通り
		土	9:00～11:30	
学生部	2/21～3/30	月～金	9:00～19:00(窓口停止時間15:00～16:00)	2/3～2/19、3/26は閉室 3/31(木)より平常通り
		土	9:00～11:30	
進路・就職センター	2/3～2/4	月～土	9:00～16:00 (月・水・金は19:00まで、土は12:00まで)	窓口停止時間(月～金)16:00～17:00 資料室は月・水・金19:00、火・木18:00、土13:00まで 利用できません 2/5(土)、2/19(土)は閉室
	2/21～3/31			
図書館	2/7～2/18	月～金	11:00～17:00	学生証を提示し、西門または東門より入構してください
	2/3～3/31			
大学院事務室	3/9～3/31	月～金	9:00～18:30(窓口停止時間11:30～12:30)	2/3～3/8は閉室 4/1(金)より平常通り
		土	9:00～13:00(窓口停止時間11:30～12:30)	
専門職大学院事務室	2/2、2/4、2/7	水・金・月	9:00～20:30	窓口停止時間11:30～12:30 ※2/1(火)より平常と異なりますのでご注意ください
	2/1、2/3、2/5、 2/8～3/31			
広報入試センター	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	
情報科学研究センター	2/3～3/31	月～土	9:00～19:00 (入学試験日、システム利用停止日は9:00～17:00)	年度末処理のためシステム利用停止日があります パソコン室閉室日は左記と異なります (入学試験日はパソコン室閉室) 詳細についてはWebまたは掲示板参照のこと
国際交流センター	3/1～3/31	月～土	9:00～16:00(土のみ11:30まで)	2/3～2/28は閉室 窓口停止時間11:30～12:30
外国語ラボラトリー	3/1～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	2/3～2/28は閉室 ※窓口停止時間11:30～12:30 ※施設閉室日は、左記と異なりますのでWeb-掲示板参照のこと
学生相談センター	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ11:30まで)	火・金の夜間開室は4/12(火)より 窓口停止時間11:30～12:30
保健管理センター	2/3～3/31	月～土	9:00～16:00(土のみ11:30まで)	窓口停止時間11:30～12:30 4/9(土)より平常通り
宗教センター	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	4/9(土)より平常通り

2月3日(木)～2月19日(土)の期間は、2011年度入学試験のため青山キャンパスへの入構が制限されます。この期間に入構の場合は西門または東門より学生証を提示し、入構してください。

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
学生支援ユニット	スチューデントセンター	2/21～3/31	月～土	9:00～16:00(土のみ11:30まで) 窓口停止時間11:30～12:30	2/3～2/19、3/26は閉室 4/1(金)より平常通り (ただし、4/2(土)は入学式のため閉室) ※2/3、15、16は追試験業務のみ窓口事務を行います
	学務グループ※				
	進路グループ				
	学生生活グループ				
	国際交流グループ(国際交流センター)				
教育・学習支援ユニット	健康管理グループ(保健管理センター事務室)	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	年度末処理のため利用停止期間があります 詳細についてはWebまたは掲示板参照のこと
	健康管理グループ(学生相談センター事務室)				
	授業支援グループ				
	情報教育支援グループ (情報科学研究センター)				
研究支援ユニット	図書グループ(図書館)	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	3/1～3/3は蔵書点検のため閉館 4/1(金)より平常通り
	メディアライブラリーグループ				
研究支援ユニット	研究支援グループ	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	現金取り扱い16:00(土のみ11:00)まで
底務ユニット	企画・渉外グループ				
底務ユニット	庶務グループ	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	現金取り扱い16:00(土のみ11:00)まで
施設ユニット	施設グループ				
財務部	大学相模原経理グループ	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	現金取り扱い16:00(土のみ11:00)まで
宗教	センター	2/3～3/31	月～土	9:00～17:00(土のみ13:00まで)	4/9(土)より平常通り

成績の通知について

2010年度卒業決定者および在学生の成績評価は、2011年3月9日(水)より、学生ポータルメニュー「成績通知書」にて通知します(大学院博士後期課程を除く)。学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecure Matrixパスワードの登録を済ませておく必要があります。(詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。)

2010年度後期より、学生ポータルメニュー「修得成績(単位)」は「成績通知書」に統合されました。修得単位の確認も「成績通知書」で行ってください。

また、上記成績通知書開示日に、卒業決定者以外の学生の保証人住所宛に「2010年度成績通知書」を送じます(大学院を除く)。卒業決定者の「成績通知書」は、学位授与式当日、学生本人に配付されます。

2010年度学位授与式・卒業礼拝

2010年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、3月26日(土)に「学位授与式」「卒業礼拝」が挙行されます。時間・場所に関しましては、大学ウェブサイト・学生ポータル等でご確認ください。

卒業・進級に関するお知らせ

対象	日程	時間	方法
卒業・修了決定者発表			
昼間部	3/9(水)	10:30	学生ポータル
第二部(夜間部)			
理工学研究科			
大学院 (理工学研究科を除く)	研究科により発表日が異なるので大学院事務室または専門職大学院事務室で確認してください		
卒業見込決定者発表(理工学部・社会情報学部のみ)			
理工学部・社会情報学部	3/9(水)	13:30	学生ポータル
進級決定者発表			
相模原キャンパス在学生 (理工学部・社会情報学部を除く)	3/9(水)	13:30	学生ポータル
第二部(夜間部)2年生			

※電話による問い合わせには一切応じておりません。
 ※卒業・修了生は、必ず2月28日(月)までに借りている図書を図書館へ返却してください。
 返却されない場合は、学位記をお渡できません。
 ※卒業の決まった学生は全員、卒業後の進路報告をする必要があります。
 青山キャンパスの学生は進路・就職センターに、相模原キャンパスの学生は学生支援ユニット進路グループに、「進路届」を提出してください。

青学オープンカレッジ 青山リレートーク

桃源郷とユートピア —東と西の理想郷

青学オープンカレッジ <http://www.j-aoyama.jp/>

芳賀 徹

(東京大学名誉教授・静岡県立美術館館長)

青学オープンカレッジでは、学内外の各分野で活躍する第一人者の方々をお招きして「青山リレートーク」(無料)を開催しています。2010年10月9日に開かれた今年度4回目のリレートークでは、東京大学名誉教授・静岡県立美術館館長の芳賀徹氏より、東西の理想郷の概念についてご講演いただきました。ここにその一部をご紹介します。

計画し管理する西洋のユートピア

ユートピアは、16世紀にトマス・モアが記した『ユートピア』、17世紀のトマス・カンパネラの『太陽の都』に始まり、以来繰り返し語られてきた、合理性を追求した理想郷です。ヨーロッパには、田園の牧歌的な快楽に満ちた「アルカディア」というギリシヤ生まれの理想郷の伝統もありますが、19世紀になるとユートピアが、社会主義・共産主義社会のモデルとして、新しい展開を見せていきます。

トマス・モアが描いたユートピアには、ほぼ同じ大きさの都市が50ほどあり、人々は人民服のような簡素な服を身につけ、規律ある生活を送っています。しかし、その規律は非常に厳格で、起床から就寝までの一日の時間割や食事のメニューが細かに定められているほか、住む場所から職業や結婚相手の選択に至るまで、徹底的に管理されます。ユートピアのそうした合理的効率的なシステムは、やがてマルクスやエンゲルスといった社会主義思想のリーダーたちに大きな影響を与えていきます。20世紀に誕生した、社会主義の国々は、まさにユートピア的な思想を地上に具現したものだといえるでしょう。

懐かしさ、美しさを備えた東洋の桃源郷

他方、東洋で語り継がれてきた桃源郷は、5世紀の初めに中国最大の詩人・陶淵明が書き上げた『桃花源の記 ならびに詩』という作品に登場します。

物語の舞台は、東晋が中国を支配していた4世紀後半の武陵と呼ばれる丘陵地帯。洞庭湖の西側の地域です。主人公の漁師は、いつものように一人で船をこいでいくうちに、兩岸に桃の花が一面に咲き乱れる流れに迷い込みます。その美しい林にそって船をさかのぼらせていくと山にぶつかった。山には、奥がほのかに光る小さな洞窟があり、漁師を誘いこむ。ようやく抜け出るとその先には豊かな田園と立派な家屋が並ぶ美しい村りが広がっていました。そこに住んでいたのは、秦の時代に戦乱を避けて逃げこんだと語る人々。漁師は数日間もてな

しを受け、村里のことを他に漏らさないと約束して家へ帰りますが、すぐに県知事(太守)に自分の冒険を報告してしまいます。太守はさっそく部下を遣わし漁師に案内させますが、漁師が残してきた目印は消えて入口はついにどこにも見つからなかった。以後今日まであの不思議の里を見つけた人は誰一人いないとのことだ——というのが大筋です。

後世まで多くの人を引きつけたこの物語には、「もしかしたら当時は本当にあったことかもしれない」と現実味を匂わせる魅力があります。具体的な背景や登場人物の設定を用いて、ノンフィクションであるような感覚を読者に与えるところは、詩人陶淵明の偉大さです。文中に描かれる、鶏が鳴き、犬が吠え、壮年の男女は農作業にいそしみ、老人たちと子供は気ままに遊んでいるという光景は、安らぎと平和、幸福を深々と実感させ、私たちの心に限りもない郷愁をよびおこしてくれます。

陶淵明が描いた「桃源郷」は、以後東アジアの数多くの詩人、画家、小説家にとって憧憬の対象となり、あまたの作品に影響を与えてきまし



た。日本でも、奈良時代の漢詩集から、江戸時代の絵や俳句、近現代の詩や小説にまで、実に豊かな桃源郷の世界が描かれています。『浦島太郎』の竜宮城も、漱石『草枕』の山の向こうの温泉宿も、一種の桃源郷であるといえるでしょう。

合理性よりも詩的想像の豊かさを—— 私たちが理想郷に求めるべきもの

桃源郷とユートピアは、しばしば理想郷の代名詞のように用いられますが、詩的な世界像を宿す桃源の村里と、合理的管理的都市国家たるユートピアとは、むしろ対極的な存在であるといえます。そのユートピアの実現を目指したはずのソビエト連邦が1990年代に崩壊し、近代ユートピア思想が地上から消え去ろうとしている今、私たちの心に残されたのは、桃の花咲く谷間の向こうに鶏鳴き犬吠える桃源郷の世界しかもはやないのではないのでしょうか。

科学技術が飛躍的な進展を遂げた19～20世紀は、人々がさまざまな可能性を信じた希望の時代でした。しかし、人間らしきよりも合理性生産性を至上としてきた結果、本来目指していた幸福が現実の社会と大きくかけ離れてしまった感を否めません。人間の分を超えた万物の支配を追求するのではなく、深いノスタルジーをよびおこしてくれる東洋的田園の平和の風景を心の故郷にもつ——そうしていれば、人はこれからは大きく道を踏み外さないでいけると信じています。

大学・大学院学費納付について

《大学院生》学費納付の期限等詳細については大学院要覧を参照願います。

《学部生》

1.学費振込依頼書発送・納付期限等について

(1)学費振込依頼書は、原則として保証人宛(お申し出があった場合のみ学生宛)に送付いたします。

①前期分・後期分・前後期分一括納入の3種類の振込依頼書を4月上旬に送付します。

納入期限は、前期分・前後期分一括納入が4月下旬、後期分が9月下旬です。期限内に納付願います。

以下②に該当する方以外には、後期分の振込依頼書は改めて送付いたしません。4月上旬に送付される後期分の振込依頼書を保管の上、振込み手続をお願いいたします。

②教育職員免許状取得の希望、各種諸資格取得の希望を申請された方は、教職課程・諸資格課程料等が加算されるため、後期分の納入必要額が変更となります。対象の方には、7月上旬に変更後の後期分の振込依頼書を送付しますので、変更後の振込依頼書を利用して、振込み手続をお願いいたします。

(2)学費振込依頼書に記載の銀行本・支店窓口での振込みは、振込手数料が無料です。ATM・インターネットバンキングおよびその他の金融機関からの振込みは、振込手数料が必要となる場合があります。

2.ご相談・お問い合わせ先

(1)住所変更(保証人・本人)

→学生部厚生課(青山)、学生生活グループ(相模原)

(2)学費の延納・分納申請

→学生部学生課(青山)、学生生活グループ(相模原)

(3)休学・退学

→学務部教務課(青山)、学務グループ(相模原)

3.休学・留年・編入学・転部・転学科・再入学をされた学生の学費は、下記の表と異なる場合があります。詳細は、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

4.4年次で留年した学生の前期分学費振込依頼書は、5月中旬発送予定【納付期限6月上旬】です。後期分は、10月中旬発送予定【納付期限11月中旬】です。

5.教育ローンについて

本学では、銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細については、AGUニュース第56号(4月～5月号)に掲載いたします。

2011年度 大学学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学部・学科	2010年度入学生		2009年度入学生		2008年度入学生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
層間部	教育学科	590,500		590,500		590,500
	英米文学科	589,700		589,700		589,700
	フランス文学科	591,000		591,000		591,000
	日本文学科	590,500		590,500		590,500
	史学科	591,500		591,500		591,500
	心理学科	622,500	391,500	622,500	391,500	622,500
	経済学部	601,500		601,500		601,500
	法学部	602,500		602,500		602,500
	経営学部	601,500		601,500		601,500
	国際政治経済学部	612,500		612,500		612,500
	総合文化政策学部	622,500		612,500		612,500
	理工学部	904,500	565,500	904,500	565,500	904,500
	社会情報学部	761,500	478,500	761,500	478,500	761,500
第2部 後商部	教育学科				339,000	
	英米文学科	338,200	246,000	338,200	246,000	338,200

転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除く

※金融機関の窓口で、10万円を超える現金での振込みを行う場合には、本人確認書類の提示が必要です。

手続きを行う方の本人確認書類(運転免許証、健康保険証、パスポートなど)が必要です。なお、預貯金口座を通じて振込みを行う場合には、上記手続きは不要です。但し、口座開設時に本人確認手続きが済んでいない場合には、窓口で本人確認書類の提示が必要となる場合があります。

参考 金融庁ホームページ <http://www.fsa.go.jp/policy/honninkakunin/>

ご相談・お問い合わせ先

学生部学生課(青山:学部) 03-3409-7835 学生生活グループ(相模原:学部院) 042-759-6004
 学生部厚生課(青山:学部) 03-3409-7945 学務グループ(相模原:学部院) 042-759-6003
 学務部教務課(青山:学部) 03-3409-7830 財務部本部資金グループ 03-3409-6479
 大学院事務室(青山:院) 03-3409-7831
 専門職大学院事務室(専門職) 03-3409-8025

2011年度 大学院学費一覧表(入学年度別)

単位:円

研究科・専攻	2010年度入学生		2009年度入学生	
	前期	後期	前期	後期
文学(英米文) 博前・博後	322,700		272,700	
文学(フランス文) 博前・博後	324,000		274,000	
文学(日本文) 博前・博後	323,500		273,500	
文学(史) 博前・博後	324,500		274,500	
教育人間科学(教育) 博前・博後	323,500	257,500	273,500	257,500
教育人間科学(心理) 博前・博後	361,500		311,500	
経済学 博前・博後	324,500		274,500	
法学(ビジネス法務を除く) 博前・博後	325,500		275,500	
法学(ビジネス法務) 修士2年制	415,500			
法学(ビジネス法務) 修士3年制	338,000	180,000	338,000	180,000
経営学 博前・博後	340,500		290,500	257,500
国際政治経済学 修士・博後	465,500	257,500	365,500	
総合文化政策学 修士2年制	465,500			
総合文化政策学 修士3年制	388,000	180,000	388,000	180,000
総合文化政策学 一貫制博士	365,500	257,500	365,500	257,500
国際マネジメント 一貫制博士	465,500		465,500	
理工学 博前	560,000	373,000		
社会情報学 博前	498,000	315,000		
理工学 博後	474,500	257,500	374,500	257,500
社会情報学 博後	440,500		365,500	
国際マネジメント 専門職2年制	656,000	378,000		
国際マネジメント 専門職3年制			546,000	268,000
法務 専門職	708,000	500,000	708,000	500,000
会計プロフェッション 専門職	807,000	600,000		
会計プロフェッション 博後	394,500	257,500	344,500	257,500

博前は博士前期課程、博後は博士後期課程 ※留年・3年次編入学は除く

2010年度 青山学院学術褒賞受賞者決定

専門分野の研究において、学術上顕著な業績を発表した本学の専任教員に授与される賞で、2010年度は以下の3名が受賞しました。

文学部史学科	飯島 渉 教授	『感染症の中国史』
理工学部電気電子工学科	澤邊 厚仁 教授	高品質・大面積エピタキシャルダイヤモンド基板の開発と新しいダイヤモンド産業の創出
会計プロフェッション研究科	八田 進二 教授	『会計プロフェッションと監査—会計・監査・ガバナンスの視点から—』

教育情報等の公表について

本学の教育内容等についてより広く知っていただくため、各種情報をウェブサイトで公表しております。2010年12月より各学部の授業内容の詳細(シラバス)等を公開しておりますので、下記URLよりご覧ください。
<http://www.aoyama.ac.jp/outline/information/index.html>

「青山学院 エバーグリーン募金」のご案内

「青山学院 エバーグリーン募金」のもとに、目的別の募金活動を行っております。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

本多記念国際会議場建築募金

青山キャンパスに建設中の新校舎6階に設けられる「本多記念国際会議場」(座席数562席)の建築資金に充当する募金です。

青山学院維持協力会募金

青山学院の財政基盤確立のために会員となってご寄付いただき、青山学院をサポートしていただく募金です。

青山学院奨学金募金

皆様方からのご寄付により奨学金を給付し、在校生を支援する募金です。

ご協力いただける場合は募金事務局へご連絡ください。資料をお送りいたします。

募金事務局(間島記念館1階)

TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890

News Index 2010.10~12

2010年10月~12月上旬の大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

2010年10月

- 社会情報学研究科博士後期課程3年の吉岡有文さんが、日本科学教育学会「科学教育実践賞」を受賞しました
- 体育会拳法部の根廻亮司選手と大場達也選手が日本拳法第3回東日本大学形選手権「二人形」の部で優勝しました
- 理工学部情報テクノロジー学科3年の大門和斗さんと湯田雅さんが、ニフティWebコンテスト2010で「アイデア賞」を受賞しました
- 陸上競技部(短距離ブロック) 上田美鈴選手が日本ジュニア陸上競技選手権大会で優勝しました

2010年11月

- AGU SURF LIFESAVING CLUB愛好会の森山瞳選手が、全日本ライ

フセーピング選手権大会の個人種目ボードレースで優勝しました

- 陸上競技部(長距離ブロック)の横山拓也選手が第5回世田谷246ハーフラソンで優勝しました
- 理工学研究科博士前期課程1年の宮本和哉さんが神奈川県ものづくり技術交流会でポスター賞を受賞しました
- 「ギャツビー学生CM大賞」において、国際政治経済学部岩井ゼミのチームが大賞を獲得しました

2010年12月

- Global Investment Research Challenge 2010国内大会で本学チームが2位に。また分析対象企業推薦による「特別賞」を受賞しました
- ラグビー部が4年ぶりとなるAグループ復活を果たしました
- 理工学研究科博士前期課程1年の田崎ひろさん(重里研究室)が第31回日本熱物性シンポジウム学生ベストプレゼンテーション賞を受賞しました

Club&Circle 5 青山学院大学英字新聞編集委員会

大学生活における、あなたの“青春”を記事にします!

英字新聞「A.G. University News」を年4回発行する英字新聞編集委員会では、記事の取材、新聞のレイアウト、印刷の依頼など、すべての作業を部員で行っています。青山祭での著名人による講演会や各種クラブ&サークルの紹介、また学外での学生の活躍などが主な記事の内容です。

私たちの活動の最大の魅力は、取材を通して多くの人と出会えることです。青山祭での講演者をはじめ、大企業の社長に取材する機会もあり、普通ではお会いできない方々と会話できるのは英字新聞だからこそできる経験です。また他のクラブ&サークルの学生との交流もとても刺激的で、こうした多くの出会いが自分自身の成長につながっていることを実感できます。

紙面には、いま学生が何に興味があるのか、大学で何が行われているのかが存分に反映されています。そして、大学生活における、あなたの“青春”を記事にすることができます。英語の学習をしながら最新情報も得られる「A.G. University News」を、これからもよろしくをお願いします。

(委員長・編集長：文学部フランス文学科3年 古屋 敦丞)

編集委員会のメンバー



部室での編集風景

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→学生センター・学生生活グループ

青山学院大学 ● 2011年1月27日発行 ●

